



Wish your Merry
Christmas
&
Happy New Year!

Webデザイン実習2C

2017/12/20

Kazuma Sekiguchi

class@cieds.jp

独自スマートフォンサイトの作成

- できるだけUI/UXという観点に主眼をおいて作成
 - どういう風にデザインすればユーザーにとって使いやすいスマートフォン向けサイトになるかを考えて構成する
- テーマ
 - 八王子駅から徒歩5分くらいのところにある架空の水族館
 - 熱帯魚が豊富に展示されているのが特徴
 - ターゲット：20歳～30歳前後の男女、小さい子どもを持っている家族
- 画像などはできるだけ商用利用可のものなどを利用

スマートフォンサイトの作成

1. どのような機能が要るか、コンテンツとして何が必要かを考える
2. ラフを描く。特に見せるべきものの、優先順位の高い物の配置を考える
3. 色、画像を配置。UIとインタラクションを考える
4. デザインを完成させる、画像を書き出す
5. HTML + CSSでコーディング、実機で確認
6. 必要に応じて修正

スマートフォンサイトの作成

- iPhone6,7,8,Plusに対応
 - 幅375px ,414pxで表示した際に問題がないようにする
 - できればリキッドデザインで行う
 - 表示確認はGoogleChromeで行う
 - 実際の機能は実装しなくても良い（例えば検索機能、カメラでの撮影など）
- HTML、CSS、必要に応じてJS、デザインカンパ（Ps、Ai、Sketch、Xdなど）を作成し、提出
- 12月20日の授業終了時に提出
 - 年明けに返します（多分）

コーディング（復習）

- HTMLが正しくなければCSSはどうやっても上手くいかない
 - HTMLタグは2種類に大別できる
 - ブロックレベル要素とインライン要素
- ブロックレベル要素にはブロックレベル要素とインライン要素を格納可能
 - インライン要素はインライン要素のみ格納可能
- 画像はインライン要素
- 文字はブロックレベル要素に格納可能（インライン要素と同じ扱いと考えた方がよい）

コーディング (復習)

- 親要素、子要素は基準となるタグによって呼び方が変わる

```
<div class="box"> ← 親要素  
<h1>見出しです</h1> ← 基準  
<p>文章ですよ</p> ← 兄弟要素  
</div>
```

```
<div class="box"> ← 基準  
<h1>見出しです</h1> ← 子要素  
<p>文章ですよ</p> ← 子要素  
</div>
```

コーディング（復習） ブロックレベル要素

Tag	意味	子要素として来ても良いタグ	注意
div	レイアウト用の意味の無いタグ	ブロックレベル要素の全て	
main	メインコンテンツを示すタグ	ブロックレベル要素の全て	1カ所のみ利用可能 HTML5以降で利用可能
section	意味上のまとまりを示すタグ	見出しタグ, section, articleタグ	HTML5以降で利用可能
article	自己完結しているまとまりを示す	見出しタグ, section, articleタグ	HTML5以降で利用可能
nav	ナビゲーションを示す	ulタグ	HTML5以降で利用可能
ul	箇条書きの始まりを示す	liタグ	
li	箇条書き、番号リストのアイテムを示す	ブロックレベル要素、インライン要素	
ol	番号リストを示す	liタグ	
p	段落を示す	インライン要素	
h1～h6	見出しを示す	インライン要素	

コーディング（復習） ブロックレベル要素

Tag	意味	子要素として来ても良いタグ	注意
dl	定義リストの始まりを示す	dt,dd	
dt	定義リストのタイトルを示す	インライン要素	dt1つにつき、ddが兄弟要素として1つ以上必要
dd	定義リストでの説明、意味を示す	インライン要素	
header	ヘッダ一部分を示す	ブロックレベル要素	HTML5以降で利用可能
footer	フッター一部分を示す	ブロックレベル要素	HTML5以降で利用可能
aside	本文とは関係ない補足や付帯情報を示す	ブロックレベル要素	HTML5以降で利用可能

コーディング (復習) インライン要素

Tag	意味	子要素として来ても良いタグ	注意
img	画像を示すタグ	なし	alt属性が必須。src属性で画像ファイルを指定
span	意味の無い文字装飾用のタグ	インライン要素	
strong	強調	インライン要素	
a	リンクタグ	インライン要素	href属性でリンク先のURLを指定
small	細目	インライン要素	
br	改行	なし	HTML5では 、XHTMLでは と記述

コーディング（復習）

- タグを組み合わせてコーディングを行う
- デザインを作成する際にどこで（レイアウト上の）枠が切れるか考えておく
 - 枠に沿ってブロックレベル要素を入れていく
 - divやsectionタグの場合、class属性も付与しておく
 - class属性の値は英数字なら何でもOKだが、先頭一文字目は英字にする
- 箇条書きにできそうなところは箇条書きにする
- リンクは[リンク先を表す文字または画像](リンク先ファイル名)で作成可能
 - クリック、タップすれば、指定されたページに遷移する

コーディング (復習)

- どこに対してどのようなスタイルを適用するか、がCSS
 - きちんとセレクターを指定することが重要
 - セレクターが指定できなければ、CSSは適用できない

セレクター指定	当たる部分
div	全てのdivタグ
#main	id= "main" の付いているタグ
.main	class= "main" の付いているタグ
h1#main	id= "main" の付いているh1タグ
div p	divタグに囲まれているpタグ
p.main	class= "main" の付いているpタグ
*	全てのタグ

CSSの作成

```
#wrapper{  
  width:980px;  
  margin:0 auto;  
}
```

セレクタとしてidを指定し
スタイルを適用

```
.text{  
  color:#F00;  
  font-size:14px;  
}
```

セレクタとしてクラスを指定し
スタイルを適用

```
h1{  
  margin:0;  
  font-size:20px;  
}
```

セレクタとしてタグを指定し
スタイルを適用

- 「どこ」に対して「どんな」スタイルを当てるかを指定
- 「どこ」に対して指定する方法がセレクタ
- 「どんな」スタイルを当てるかは (CSS) プロパティ

同じタグへのスタイル指定

- 同じタグに対して別のスタイルを与えたい場合
 - タグをセレクタとして利用すると同じタグには同じスタイルが当たる
- 他との差を付けるために class属性 を用いる
 - id属性も使えるが、最近はidを使わずにclassだけを使うことも多い
- class属性を使わずに順番を考慮したセレクターの指定をする方法もある

```
nav li{  
width:200px;  
}
```

navタグ内のliタグに
だけ適用

```
.wrap p{  
font-size:24px;  
}
```

class="wrap"内のpタグ
にだけ適用

```
.menu .item{  
color:#F90;  
}
```

class="menu"内の
class="item"にだけ適用